

SCRP の報告

加齢歯科診療室 伊藤 加代子

SCRPって、ご存知ですか？

これは、スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムの略で、毎年8月に日本歯科医師会で行われる、歯学部学生による研究成果の発表会を指します。

参加を希望する学生は、指導教員と研究を行って、その結果をポスターにまとめます。そして発表当日、英語でプレゼンテーションを行い、審査を受けます。優勝者は、アメリカ歯科医師会総会で発表する機会が与えられるというものです。

2010年度は、4年生の上田千尋さん、相原のぞみさん、渡邊恵理子さんが参加をしました。テーマは、「喫煙者における舌ブラシ清掃が味覚機能に与える影響」で、指導は摂食・嚥下リハビリテーション学分野の井上誠教授、伊藤加代子、船山さおりが行いました。また、SCRPの経験者でもある硬組織形態学分野の中富満城先生がファカルティアドバイザーを務めてくださいました。

SCRP発表までには、3つのなだらかな(?)山場がありました。

最初の山は、研究プロトコルを考え、研究手技を習得することです。上田さん、相原さん、渡邊さんにとっては、研究のプロトコル作成も、診療室でのユニット操作も、味覚検査も初めてです。全て準備されている実習とは違い、詳細な実習書はありませんし、被験者も自分たちで集めなければなりません。四苦八苦しながら、でも目をきらきら輝かせて、準備にいそしんでいました。

2つ目の山は、データ解析。座学で統計学を学んでいても、すぐに実践できるわけではありません。解析する目的やデータの特性に合わせて統計方法を選択し、その結果を考察する必要があります。抄録提出締切日に追いかけれながらの作業



左より中富、伊藤、上田、相原、渡邊

でした。

最後の山は、英語でのプレゼンテーション。中富先生や、口腔生命福祉学科のロクサーナ・ステガロク先生にご指導いただきました。また、予演会では多くの先生から貴重なご意見をいただきました。

そして迎えた発表当日。

残念ながら入賞することはできませんでした。彼女たちの顔には、ひとつのことをやり遂げた達成感がありました。

学生にとって、通常の講義・実習や部活をこなしながらSCRPに参加するというのは、大変なことだと思います。しかし、自分たちで考え、試行錯誤しながら、研究のプロセスを体験できたというのは、何物にも代えがたいはず。また、発表当日に知り合えた他大学の学生や、SCRPのOB・OGの先生方との交流は、今後、人生における大きな宝となるでしょう。

最後になりましたが、いろいろご指導いただきました先生方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。今後、SCRPに参加したいという熱い思いを持った学生が増えてくれることを祈りつつ、稿を終えたいと思います。

SCRP 報告

歯学科4年 上田千尋

昨年度のスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRP) に新潟大学歯学部代表として出場させて頂きました。SCRP をご存じない方もいらっしゃるかと思いますので、簡単に説明させて頂きます。SCRP とは、全国の歯学部の学生が、学生主体で研究を行い、その研究成果を毎年8月に東京の日本歯科医師会館にて発表するという、研究発表大会です。発表はポスタープレゼンテーション形式で行われ、発表者は英語で審査員に対してポスターの前で説明を行い、質疑応答も英語で行われます。優勝者はアメリカ歯科医師会総会にて発表する機会を得ることができます。

私が SCRP に出場することになったきっかけは、前年度の SCRP 報告会に出たことがきっかけでした。それまで SCRP のことは詳しく知らなかったのですが、学生主体で研究をさせてもらえるチャンスなんて滅多にあるものではないと思ったので、共同研究者に相原さん、渡邊さんを加え、早速始めることにしました。

私の研究テーマは『喫煙者に対する舌ブラシ使用が味覚機能に与える影響』でした。喫煙者を対象とし、舌ブラシ清掃をすることによって味覚機能がどのように変化するのかという研究なのですが、一番大変だったのは喫煙者の被験者を集めることでした。クラスの皆に協力してもらったり、五十嵐キャンパスまで出向き、全ての喫煙所を巡ったりして何とか必要な人数を確保しました。快く協力してくれた同期の皆の存在がとても嬉しかったです。

もう一つ大変だったことは英語です。研究を始めた当初、正直私は英語を聴きとることも話すこともできませんでした。今まで避け続けてきた英語の壁が私の前に立ちふさがったのです。それから半年以上、文字通り「英語漬け」の日々でした。一人にいる時はひたすら英語を聴き続け、週末には友達とお茶をしながら英語で会話をするという

「英語の会」を開いたりしました。特訓の甲斐もあって、本番では自信を持って臨むことができました。人間、必要に迫られて初めてできる事もあるのだなあと、つくづく実感しました。拙い英語ですが、SCRP を通して英語に対する抵抗を取り去ることができた事が私にとってはとても大きな収穫でした。留学生の友達も沢山でき、今でも楽しく英語の勉強は続けています。

SCRP を通して得たものの一つに、「人との出会い」というものがあります。研究指導でお世話になった先生方との出会い、本番会場で知り合った全国の歯学部学生の友人との出会い、SCRP の OB の先生方との出会い、英語を通じて出会った留学生の友人…。どの出会いも SCRP に参加しなかったら得る事が出来なかったもので、私の大切な宝物です。

SCRP を最後までやり通すことは確かに大変な作業かもしれませんが、でも、終わった今振り返ってみると、得たものがあまりにも多すぎて、楽しかったことしか思い出せません。是非後輩の皆さんにも果敢にチャレンジしてもらいたいな、と思っています。必要なのは始めの一步を踏み出すやる気だけです。そこから先はきっと色々な人に支えられて、自分の予想以上の楽しいことが待ち受けているはずですよ。私も SCRP 経験者として、後輩たちを全力でサポートしたいと思っています。



SCRP での貴重な体験

歯学科4年 渡 邊 恵里子

今回私は共同研究者という形でSCRPに参加しました。参加の動機は、一昨年同じ部活の先輩が参加していたので身近に感じさらに自分も研究に興味があったのと、参加した頃は講義も基礎の内容がほとんどだったので、臨床研究を通じモチベーション向上したいということや参加当時将来の具体的な目標がなかったので自分がどういう歯科医になりたいか将来像について考えるきっかけになればと思ったためなどです。

研究では摂食リハビリテーション講座にお世話になり3月から6月ごろにかけ放課後診察の終了する5時以降に加齢歯科診療室をお借りし被験者の方に味覚検査等を行いました。何度も練習を行った上ででしたがまだ臨床の現場に出たことのない私たちにとって被験者の方は初めて患者様として接する機会であったので初めてのころは非常に緊

張し、被験者の方にご迷惑をかけたこともしばしばでした。しかし次第にスムーズに行えるようになり、実際に診療台の使い方、患者様への接し方などを学ぶことができたことは本当によい体験になりました。発表は8月20日に東京で行われましたが、その後開かれた交流会では全国の歯学部学生やOBの先生方と知り合うことができ、彼らの意欲・意識の高さを感じることで私も気持ちが引き締まりました。SCRPを通じ普段の講義では得られない貴重な経験をいくつもさせていただいたこと、さらに多くの方々とのつながりができたことは私の今後の財産となると思います。研究に協力いただいた被験者の方々、ご指導いただいた先生方に深く感謝します。後輩の皆さん方もぜひSCRPに参加してみてください！

歯学科4年 相 原 のぞみ

昨夏、共同研究者という形で、SCRPに参加させていただきました。

私がSCRPに参加したのは、まったくレールの敷かれていない自分の将来を考える上で、在学中の早いうちからできることをやっておきたい、もっと広い視野で歯科業界を見られるようになりたいと考えたからでした。

今回の私たちの研究では、学生～院生・研修医の喫煙者を対象にした味覚検査を行いました。実際に条件に合った被験者を多く集めるのはなかなか困難です。喫煙者に直接お願いするため、初めて喫煙所に入って、狭さと臭いと、喫煙所で繰り広げられる社会に驚きました。いつもは禁煙推進派の私ですが、この時ばかりは喫煙者の友人が輝いてみえたものです……被験者として。味覚検査

自体は非常に地味な作業なのですが、これを授業終了後にやるとなると辛いものがありました。しかし、被験者の方から、『頑張ってください』『どんな検査結果になるのか楽しみです』はたまた、『この研究、非常に興味深いです、研究が完成したらみせてください！』という声をかけていただき、本当に嬉しく励みになりました。

授業や診療が終わり、夕方の疲れた時間にも関わらず、快く検査を受けてくださった被験者のみなさまにこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

SCRP会場では、他大学歯学部の出場者や、過去の出場者の先生とのたくさんのお会いがありました。同じ大会を目標に頑張ってきた経験を持つもの同士、共通したアツいものを持っている人

ばかりで、面白い話をたくさん聞くことができました。大会が終わった現在でも、OB・OGの集まりが度々開催されており、良いコミュニティに属することができたなあと実感しています。

SCRPでの活動は大変なことも多かったの

ですが、今振り返ってみると、自分にとってプラスになったことばかりです。真面目な文章を書くのが本当に苦手な相原の報告文では、この魅力は全く伝わらないと思いますが、意欲のある後輩にはぜひ参加することをお勧めします！

